

不安定な時代と新支部誕生

会長 森 孝晴

エジプトのムバラク長期政権が倒れて中東が今揺れています。わが日本にも万全の政権は現れず世の中では日々殺伐とした事件が連続して起こっています。去年は猛暑が続き異常気象だと騒がれましたが、この冬は異常な寒波が襲い2月後半の現在でもそれは続いています。鹿児島では雪の降らない冬もあり平均でひと冬に1～2回しかまともには降りませんが、今年はもうすでに5回にわたり積もる雪が降り、皆さんご存知のように新燃岳が大噴火し、つられたのか桜島の活動も活発になっているのです。危機感をあおるつもりはありませんが、我々が色々と不安定な時代に生きていることは間違いありません。

こんな時代にジャック・ロンドンを読むことは時にある種の痛みを伴うかもしれないかもしれません。昨年エッセイ集で扱った『赤死病』や長編『マーティン・イーデン』はそんな作品の代表格でしょう。やりきれない思いを抱きつつ読み進み、読み終わるとため息をつきたくなるような作品がロンドンには少なくありません。しかしそれはロンドンがいかに真剣に時代や文明と立ち向かったかを示すもので、我々現代の読書はそこからこの不安定な時代にどう立ち向かうべきかのヒントを得ることができるのです。

そんな中うれしいお知らせがあります。我が協会に4つ目の支部読書会が誕生したのです。このニューズレターが皆様のお手元に届くころには第1回の名古屋支部読書会が開催され、活動が本格化します。名古屋支部設立のためにご尽力くださった山田副会長をはじめとする支部の皆さんに心より敬意を表しますとともに、お祝いを申し上げます。京都、鹿児島、中・四国、そして名古屋の4支部が歩調を合わせ友情をはぐくみつつ頑張ってまいりましょう。

もうひとつうれしいことに『ジャック・ロンドン研究』の論文執筆に3の方が申し込まれました。翻訳を掲載したいと言っておられる方もいらっしゃいます。締め切りは今年の大みそかです。執筆予定の方々にはぜひ頑張ってお提出をいただきたいと思ひますし、第20回記念大会までには発行する予定ですので、会員の皆さんにはどうぞご期待いただきたいと思ひます。

さて今年の第19回年次大会は鹿児島市で開催します。実はこの3月に九州新幹線が全線開業し、博多から鹿児島までが最速で1時間19分となります。飛行機ばかりでなく列車での旅も十分可能になりますので、大会に参加したついでに龍馬の入った温泉にでもゆっくりつかって帰られませんか。詳しいご案内

内は5月にお送りしますが、研究発表も本協会では珍しく大学院生によるフレッシュな発表を予定していますし、よい会場も取れそうです。鹿児島支部会員一同心よりお待ちしております。

今年度私のアメリカ文学ゼミでは2人の学生がロンドンで卒論を書き上げました。ほぼ毎年ロンドンをテーマに選ぶ学生がいますが、今年は特に今の時代やロンドンの文明観をめぐる議論を彼らと戦わせました。それは文学を教える醍醐味でもあります。これから不安定な時代を生き抜いていかなければならない学生たちへの私の激励でもあったのです。読むことによって時代や社会や文明や人間関係を読み解く力を得、書くことでそれを分析してどう立ち向かえばよいかを見出していくことができるのです。

ジャック・ロンドン協会に所属し、支部読書会で活動に、エッセイ集や『ジャック・ロンドン研究』に投稿することで、皆さんもぜひ力強くこの不安定な時代を生き抜いてください。遅ればせながら今年もよろしくお願い申し上げます。

(2011/02/17)